言長良の男、この天皇の外舅なり、忠仁公の故事のごとし、この天皇性惡にして、人主の器にたへず見えたまひければ、攝政なげきて、廢立のことをさだめられにけり、むかし漢の霍光、昭帝世をはやくしたまひしかば、昌邑王を立て天子とす、昌邑不德にして器にたへず、即廢立をおこなひて、宣帝を立てたてまつりき、霍光が大功とこそ云るしつたへはべるめれ、この大臣まさしき外戚の臣にて、政をもつはらにせられしに、天下のため、大義をおもひてさだめおこなはれける、いとめでたし、されば一家にも人こそおほくきこえしかど、攝政關白は、この大臣のするのみぞたえせぬことになりにける、つぎ〳〵大臣大將にのぼる藤原の人も、みなこの大臣の苗裔なり、積善の餘慶なりとこそおぼえはべれ、

〔大日本史贊藪〕陽成天皇紀贊

贊曰、廢立天地之大變、而開闢以來不有人臣行之者、孝謙皇帝以母廢子、天下猶以淡路帝之無罪爲悲、攝政基經、乃以人臣擅行廢立、而朝野肅然、莫敢支吾、豈非帝之失德有以自取歟、傳云、不有廢也、君何以興、帝之被廢、迺光孝之所由興、而權歸相府、功烈震主者、亦兆於斯、究其所以、豈非天地之大變耶、

〔讀史餘論〕基經外舅の親によりて、陽成を廢し、光孝を建しかば、天下の權歸於藤氏、その後關白を置き、或は置ざる代ありしかど、藤氏の權おのづから日々盛也、二變

〔日本政記、六陽成〕賴襄曰、國朝有廢太子、未有廢天子、廢天子自藤原基經始、而當時無異議、後世稱之者何哉、由其門望無比乎、藉其父勢乎、抑其器略神識壓服中外乎、三者皆然、然有大焉者、曰所廢當廢者也、所立當立者也、立當立者、而廢當廢者、雖無三者、天下將服之、況有三者、藉而行之、如以巨船大帆乘順風壯潮、誰能禦之哉、基經不必知古有霍光者也、而能爲光之所爲、豈非大臣慮社稷者有所暗合耶、而吾以基經爲勝於光也、夫光不及基經之資望者、則基經此舉宜如易於光也、而其實爲